

葛飾FCニュース

VOL40 2009 3月号 最終版

【学年役員紹介】

2009年度の学年代表及び副代表が決まりましたのでご報告いたします。
以下の方々です。(敬称略)

	<学年代表>	<副代表>
1年	児玉(仮)	
2年	渡邊	宮野
3年	濱村	北村
4年	徳野	町田
5年	菊地	勝木
6年	上柿	児玉

来年度の新役員は、4月の総会にて発表予定です。

【六年生を送る会】

3月21日(土)葛飾公民館にて『六送会』が開かれました。
毎年5年生の保護者が企画・運営して開催されています。
今年も楽しいゲームや心温まるセレモニーに卒業生はもとより
親も楽しく過ごさせていただきました。
また3月22日(日)『グランド六送会』が開催され親子共々、楽しい
ひと時を持つことができ、良い思い出になった事と思います。
5年生の保護者の皆様、本当にありがとうございました。

卒業生およびご父兄の方々へ(本堂代表より)

私は、卒業した6年生と一緒に葛飾に入り一緒に年を重ね、彼らが大人になっていく上で大事なこの時期に彼らにとって始めてのサッカー指導者として関わってきました。6年もの長い間、飽きもせず、子供たちと我々を支えて下さった父兄の方々や他のコーチの方々、それから付き合ってくれた子供たちに深く感謝したいと思います。

まずコーチとしてですが、サッカーの指導方法は十人十色、目標は同じでも過程は皆違います。そして子供たちのプレーに予め準備された正解がないのと一緒に指導方法にも正解はありません。さらに我々がやってきたことが、いつどんな形で花開くのか、いつ成果となって見えてくるのかも分かりません。そんな中、がまんして指導してきたコーチの方々本当にお疲れ様でした。試合に勝てたら成果が出た、負けたら成果がなかった、だったら分かり易いのかも知れませんが、葛飾のサッカーはそうではありません。子供たちにとっても、葛飾FCで上手くなったのかそうでないのか良く分からなかったかも知れませんが、将来に向けた種をちょっとは持たせてあげられたと思っています。目標に到達する過程やもちろんその目標は子供一人ひとり違います。是非いつか各人の背丈に見合った大きな花を咲かせて欲しいと思います。

この6年間で、何人かは葛飾FCを辞めていきました。自分に合わないと感じたのか、面白くなかったのか、理由は様々あったかと思いますが、サッカーはやりたくない時や現実やれない時に無理をしてやる必要はないと思っています。サッカーはやりたい時にやりたい人とやりたい場所で楽しんでやるのが本質です。辞めていった子供たちや中学に行ってもサッカーをやらない子供たちも、気が向いた時には自分でプレーしなくてもいいから何かしらサッカーで楽しんでもらえればいいなと思っています。自分も経験してきましたが、押し付けられる、余裕がない、過度に期待されプレッシャーを受けた子供たちは、その時は確かに上手になりますが気持ちは次第にサッカーから離れていきます。そういう訳で今後とも子供たちを長い目で観てあげて下さい。小学校を卒業し中学高校と成長していくこれからは本番なのです。ちなみに、6年生はゴールデンエイジと言われますが、彼らの半分くらいはこれからはその時です。

卒業して行く子供たちに、葛飾FCでのサッカーはどうだった？こんな質問をすると彼らは必ず大人の顔色をうかがって差しさわりのない返答をしてくれます。多分「楽しかった」「上手になった」「もう少しがんばれば良かった」「もっと沢山やりたかった」「長かった」「良かった」などなど。練習でも試合でもこういう質問の答えは決まっています。でも本当は(正直なところは)もっと違う事を考えているはずです。サッカーの考え方やプレーに正解がないと先に書きましたが、大人が言う正解を探しながら、顔色をうかがいながらプレーするのを見た時ほどがっかりする事はありません。でもそれは子供のせいではなく大半は大人がそうさせているのです。そんな外野に惑わされることなく是非子供たちには自由にサッカーを表現してもらい、中学高校と厳しさを増す中それでも自分の発想でプレーする子供たちを見ることができたらと思っています。

葛飾FCはサッカーで遊びたい子はいつでも誰でも歓迎します。

是非グラウンドで会いましょう。

平成20年度葛飾FC卒業生より『テント』が贈呈されました。

かけがえのない輝く時間
素晴らしい出会いに感謝